

# 令和5年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

## 第3回市民啓発部会を開催しました



○12月14日（木）に第3回市民啓発部会を開催しました。参加者は、部会メンバー6人、上越地域在宅医療推進センター1人と事務局4人の11人でした。

○今回の議題

- (1) 第2回部会の振り返り
  - (2) 各委員（各職種・各団体）の立場で出来る具体的な取組について意見交換
  - (3) 今後のスケジュールについて
- 以上について情報共有と検討を行いました。

○部会での検討事項等

- (1) 第2回部会の振り返り
  - ・ACPを市民に啓発するには、まず専門職自身がACPを理解することが必要。
  - ・各職種によって、ACPについての理解度や実践状況に差がある。
- (2) 各委員（各職種・各団体）の立場で出来る具体的な取組について意見交換
  - 〈ケアマネジャー〉
    - ・研修会等でACPを意識した支援の好事例や失敗談等の共有を行う。
    - ・日頃の役割分担や支援者間の連携。
  - 〈老人福祉施設協議会〉
    - ・職場内での研修。
    - ・妙高市のまちかどスポーツサロン「まちか

どカフェ」でACPに関する講座を開催。

- ・地域の茶の間や介護者教室等での講座開催。
    - 〈地域包括支援センター〉
  - ・包括職員研修会やケアマネ研修会等で、ACPをテーマに取り上げる。
  - ・普段からACPに関わっている職種のため、ロールプレイ等の実践に向けた内容がよい。
    - 〈薬剤師〉
      - ・基礎的な内容で研修会を開催。事前に啓発リーフレットを配布し、研修の事前・事後でどう考えが変わったか、アンケート等で確認する。
    - ・薬剤師や栄養士等のACPへの関わりが少ない職種向けの関わり方マニュアル等があるとよい。
  - 〈医師〉
    - ・日頃から自身の将来をどうしたいかは患者と共有しながら業務を行っている。
    - ・更なる多職種との連携が必要。
  - 〈保健所〉
    - ・人生会議協議会のサポーター養成研修は次年度も開催予定。
  - ・ACPに触れる機会が少ない職種でも、関わりのきっかけがある。ACPの介入の気づきを持ってほしい。
  - 〈栄養士〉
    - ・支部研修会で人生会議について周知する機会を作る。
    - ・職場で啓発リーフレットやもしバナカードを使用し、内部研修を行う。
- (3) 今後のスケジュールについて
    - ・まずは部会員がACPの基本を学ぶために、部会内で研修を行う。（3月を予定）
    - ・令和6年度は専門職がACPの理解を深めることを目標とし、各委員がそれぞれ啓発に取り組んでいく。